

現 状 認 識

対応が急務な

市の課題

- 1 つながりの希薄化（人口減、独居世帯増、核家族化、未婚率増、スマホの中毒化、団体スポーツの衰退）
- 2 若者の離町の進行（就きたい職業減、担い手不足、つながり・しきたりからの解放、都市部へのあこがれ）
- 3 市街地の空洞化（地価下落、大規模店の郊外出店、幼保小中高の再配置による通学・送迎の距離と負担増、空き地、空き家・空き店舗の増加、土地再利用の停滞）

その解決へ向けた

網野の強み

- 1 市街地の一等地の出現（網野庁舎本館解体による一等地の出現は土地再利用にとって千載一遇）
- 2 既存施設との相乗効果（金融、配送、地場産品販売、小規模店、医療機関、市役所・図書館・体育センター等）
- 3 都市機能を有すところ（域内・域外を結ぶ交通の拠点となる潜在機能を兼ね備えている立地であること）

京丹後市の「課題解決における公費負担の投資効果を最大限発揮できるエリア」である



検討アプローチ（項目別）

▽一体性

各種機能は、
周辺エリアを一体として
捉え、相互に補完し、
相乗効果を見出す。

▽地域性

網野神社、銚子山古墳
嶋児神社、離湖
八丁浜シーサイドパーク
琴引浜、夕日ヶ浦
子午線塔、磯街道
等の観光地等を巡る
「散策・サイクリング」
コースの拠点に。



▽機能性

- ・親子で遊べる
- ・雨の日でも遊べる
- ・夜でも明るい
- ・防災
- ・障害のある人も
- ・世代間交流ができる
- ・そこに行けば誰かがいる
- ・スポーツもできる(公園)
- ・観光の人も(交流人口)
- ・快適、衛生的
- ・ユニバーサルデザイン

▽環境性

- 環境に調和した施設づくり
- ・敷地内を積極的に緑化
 - ・建築物は木造
 - ・隣接空き工場を購入・解体
※廃屋化が進行中

2年を超える議論の総括

コンセプト 「繋がる」

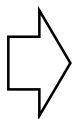
① ひととひとが繋がっている



幼少期から、どれだけ、友達、仲間、家族と関わり合いを持って育ってきたか。

その積み重ねが、若者が故郷に帰る大きな原動力になる。

小さなふれあいが、郷土愛と支え合い（愛）を育むことに繋がる。



② まちとまちが繋がっている



町内の各集落と

市内の主要地と



市外の主要地と

基本方針 コミュニケーションが生まれる場の創造

◎オープンなワクワクする交流広場

1. 地域がにぎやかになる空間
2. 老いも若きも集い語らえる空間
3. 子育てを応援する空間
4. まちの光を発信する空間

整備

- ・市民交流広場「スペースあみラボ」
- ・市民交流センター「コフーン」



③ ひととまちと歴史が繋がっている



銚子山古墳からの眺望と網野の市街地周辺（昭和）



国指定史跡として公園整備が進む網野銚子山古墳

エリアと施設の捉え方

市民交流広場のエリアの総称

：「**スペースあみラボ**」

＜住民の願い＞

地域の核となり、網野のにぎわいの起点として、
住民が育て、関わり続ける交流広場とする

＜名称の由来＞

まちづくりの**研究所 (Laboratory)** として、将来にわたり、住民自らが地域課題を解決するための実践を行うエリアと位置付ける

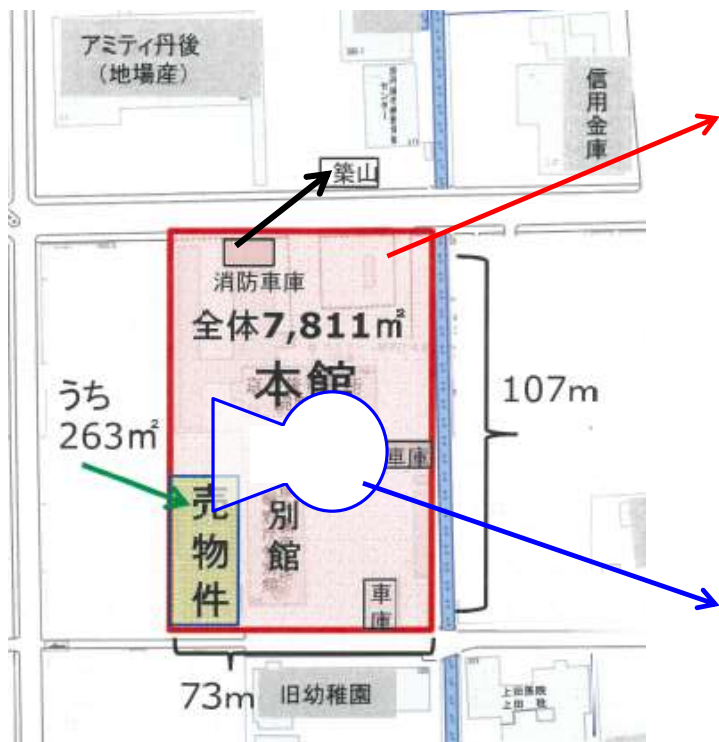
市民交流センターの施設の総称：**コフーン**

＜施設に対する住民の願い＞

明るい網野の未来を開き、
世代間交流を生み、まちづくりを進める交流施設

＜名称の由来＞

「コフーン」とは、「コクーン(繭)と古墳(墓)」とを合わせた造語。
繭は母親に宿った胎児を意味し、墓は人の死を意味することから、「コフーン」とは人の一生を表す言葉となり、全ての老若男女があまねく集う場所となることを願う施設である。また、繭は地場産業の絹織物・丹後ちりめんの象徴と言え、古墳は日本海側最大の前方後円墳で網野町のシンボリック的存在である網野銚子山古墳をあらわすことから、「コフーン」は施設名としてふさわしい。



跡地一帯及び建物全体を
有効かつ機能的に
使用するための要望事項

- ①建設部及び付属する車庫の移転と取り壊し
- ②消防車庫の移転と取り壊し
(保健センター前の築山を撤去して移転)
- ③旧織物工場の敷地の購入